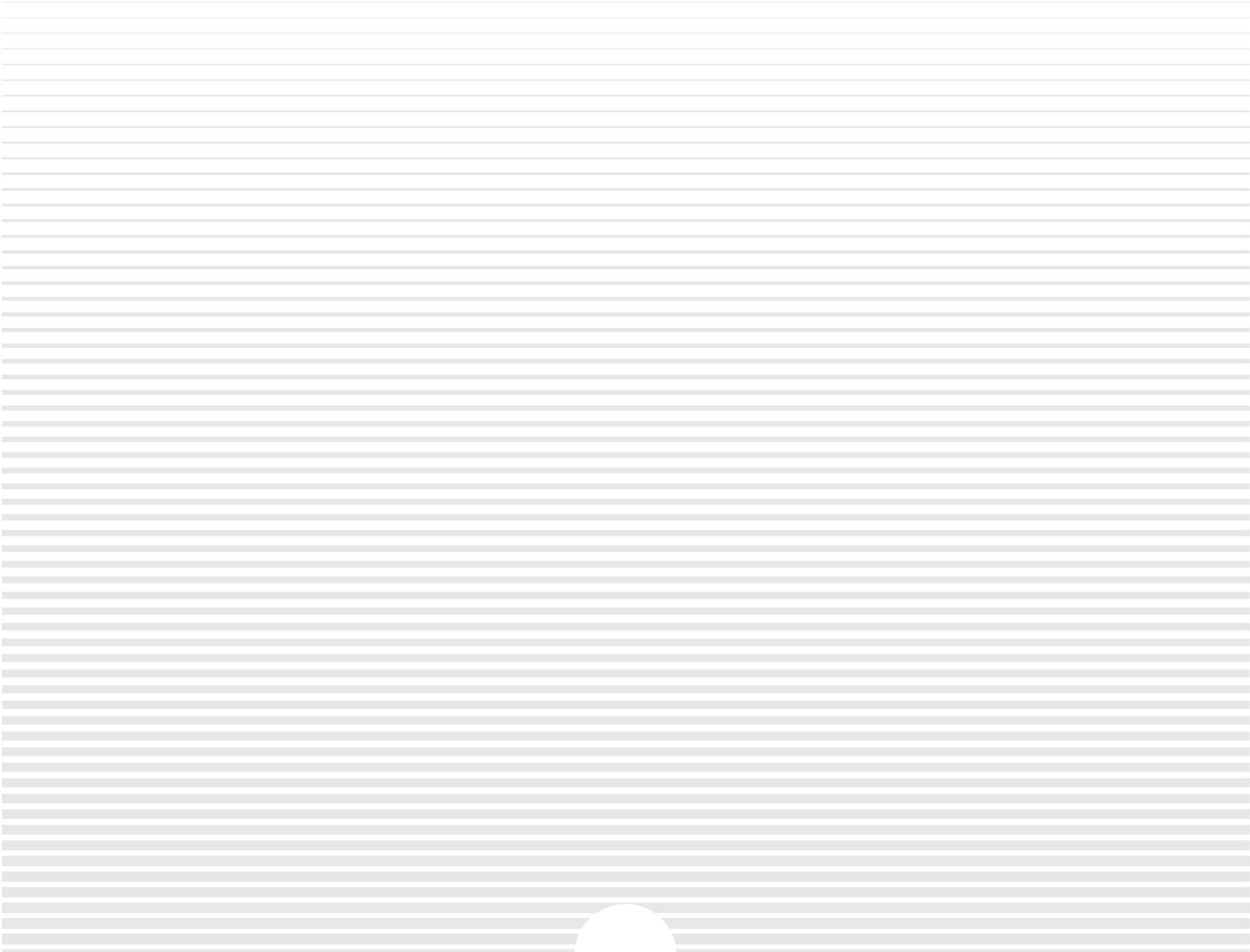


# 3.3

## 教育体制・産業界ニーズ把握 体制の後方支援





## (1) ユビキタスキャンパスグループ活動報告

### 1. グループ事業の取組

本グループ事業では、教育体制・産業ニーズ把握体制の後方支援を目的として、ICT環境の整備およびICT利活用推進を中心とした以下の活動を行っている。

- (1) 学内 ICT 環境の整備・充実(設備等の維持や利便性向上の検討)
- (2) 携帯情報端末の配布・諸説明等の ICT リテラシ指導、および、eラーニング推進
- (3) 「4つの教育事業」で使用するアプリケーション・システムの開発・運用支援
- (4) 事業成果の広報等を目的とした Web サイトの構築・運用

平成 25 年度は、平成 24 年度の実施状況と評価結果を踏まえ、改善活動を中心に実施した。特に、スチューデントプロフィールシステム(Sozo Passport)・プロジェクトマネジメントシステムの追加開発・改修の支援、eラーニングシステム(Handbook、Sozo Platz)の改修・利用促進、本事業 Web サイトの改修と充実化、等に取り組んだ。

また、前年度に引き続き、6 月頃を目途に平成 25 年度入学生(学部・経営学科 1 年、短大部:キャリアプランニング科 1 年)に iPad を貸与し、導入支援をはじめとするサポートを行った。

#### <<主なスケジュール>>

分類	時期	内容
(1)	4 月	プロジェクト管理システムの情報更新や各種システムのアカウント作成など
	4 月～3 月	学内 ICT 環境の維持・管理・監視、充実化. 状況に応じて改善活動
(2)	4 月	プロジェクト管理アプリ導入支援(情ビ 3 年、キャリ 2 年)
	4 月～3 月	Sozo Platz 追加開発・改修と運用
	5 月	携帯情報端末の配布準備
	6 月	携帯情報端末の配布、利用方法に関する説明会(経営 1 年、キャリ 1 年)
	12 月～2 月	携帯情報端末の物品確認および回収 【確認】 12 月:情ビ 3 年・キャリ 1 年、1 月:経営 1 年、経営 2 年 【返却】 1 月:キャリ 2 年、2 月:情ビ 4 年
(3)	4 月～8 月	スチューデントプロフィールシステム開発支援
	9 月	スチューデントプロフィールシステムの導入支援(説明会やマニュアル作成など)
	4 月～3 月	プロジェクト管理システム開発支援
(4)	4 月～3 月	Web サイトの運営および改善

情ビ:情報ビジネス学部キャリアデザイン学科, 経営:経営学部経営学科

キャリ:短期大学部キャリアプランニング科

<<主な行事>>

分類	日付	内容	対象
(3)	4月9日(火) 4月11日(木)	プロジェクト管理アプリ導入説明会	情ビ3年
(3)	4月17日(水)	プロジェクト管理アプリ導入説明会	キャリア2年
(4)	4月30日(火)	Webサイト改修・公開	
(2)	5月30日(木)	Sozo Platz 機能改善 (v1.2.0 → v1.3.1)	
(3)	5月31日(金)	プロジェクト管理アプリ機能改善 (v2.1 → v2.2)	
(1)	6月11日(火)	iPad 充電ロッカー整備 (新 iPad 対応)	
(2)	6月12日(水)	iPad 配布・説明会 (+ Handbook, Sozo Platz 導入説明)	経営1年
(2)	6月12日(水) 6月13日(木)	iPad 配布・説明会 (+ Handbook, Sozo Platz 導入説明)	キャリア1年
(1)	8月9日(金)	インターネット接続回線切り替え工事(最低保証帯域の改善) ※ 本学ネットワーク管理委員会・システム管理室を中心に実施	
(3)	9月11日(水)	スチューデントプロフィールシステム(Sozo Passport)利用説明会	教職員
(3)	9月13日(金) 9月17日(火) 9月19日(木)	スチューデントプロフィールシステム(Sozo Passport)利用説明会	経営1年 経営2年 情ビ3年
(3)	9月16日(月)	スチューデントプロフィールシステム(Sozo Passport)本稼働開始	
(3)	11月19日(火)	プロジェクト管理アプリ機能改善 (v2.2 → v2.3)	
(3)	2月	Sozo Platz 機能改善	
(2)	2月	プロジェクト管理システム機能改善	

① iPad 配布・説明会 (6月12日、13日)

平成25年度入学生(経営学部1年生、短期大学部キャリアプランニング科1年生)に対して携帯情報端末(iPad)を貸与するとともに、iPadの基本操作やeラーニングシステム(Handbook、Sozo Platz)の導入に関する説明会を実施した(図3.3.1)。



図 3.3.1 iPad 配布・説明会の様子(左:経営1年、右:キャリア1年)

- ② スチューデントプロフィールシステム(Sozo Passport)利用説明会(9月11日～9月19日)  
教職員および学生を対象に、平成24年度末～平成25年度春学期にかけて開発を行った「スチューデントプロフィールシステム(名称:Sozo Passport)」に関する利用方法等の説明会を開催した(図3.3.2)。



図 3.3.2 スチューデントプロフィールシステム(Sozo Passport)説明会の様子(左:教職員、右:学生)

## 2. 活動成果

### (1) 学内 ICT 環境の整備・充実(設備等の維持や利便性向上の検討)

- 平成23年度末に無線LAN環境の充実化をはじめとする学内ICT環境の更新を行い、大学の一般教室・PC教室のすべてにおいて携帯情報端末から無線LAN接続ができる環境を整えている。平成24年度は、更新後の学内設備に対してシステムログ等の観察を通じて不具合発生状況を監視した。平成25年度も同様の活動を行い、結果として、特に不具合の発生は確認されなかった。現状では安定した無線接続環境を提供できているといえる。
- ネットワーク端末の増加に伴い、学内からのインターネットトラフィックも増加傾向にある。これに適切に対応するため、本学情報システム部門(ネットワーク管理委員会、システム管理室)を中心に、インターネット回線の増速(最低保証帯域の改善)を行った。
- 本学では、学内におけるiPad活用の促進を目的として、学生のためのiPad充電用ロッカーを設置している。平成25年度から貸与するiPad(第4世代以降)は、本体で採用されているコネクタの形状が従来のものと異なるため、それらの端末に対応するよう充電ロッカーの再整備を行った。

### (2) 携帯情報端末の配布・諸説明等のICTリテラシ指導、および、eラーニング推進

- 平成25年度入学生(1年生)に対してiPadを貸与するとともに、基本的な操作や管理方法に関する説明を行った。同時に、eラーニングアプリ(Handbook、Sozo Platz)の導入および利用に関する説明も併せて行った。
- 平成24年度後半にeラーニングシステム(Handbook)用サーバの増強を実施し、また、教職員に対してはより一層の利活用を検討するよう働きかけた。その結果として、平成25年度は前年度と比較してさらに授業や演習でのシステム活用が進んだ。図3.3.3はHandbookログイン数およびコンテンツ数を示したものである。図3.3.3より、年間を通してeラーニングシステムが活用されており、また、教職員が作成した教育用コンテンツも飛躍的に増加したことがわか

る。

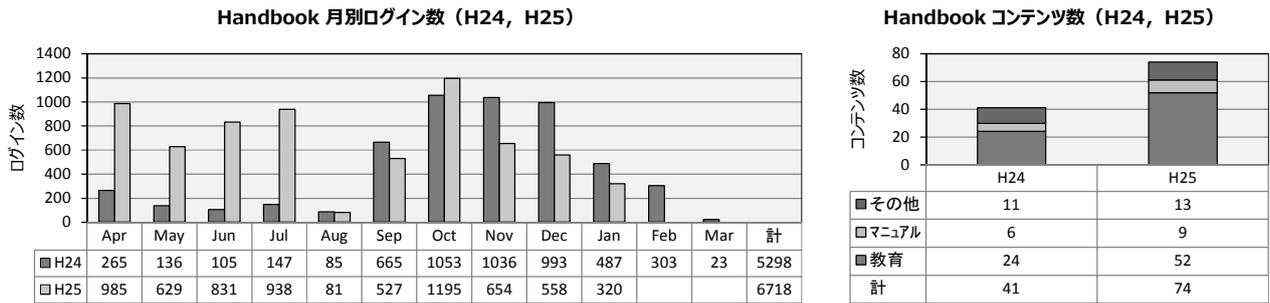


図 3.3.3 e ラーニングシステム(Handbook)活用状況

- 就業力育成支援を目的として開発した一問一答 iPad アプリ(Sozo Platz)について、不具合の修正を行った。また、問題再配信機能(配信予約機能を含む)を開発することで、過去のリソース(作成課題)を有効に利用できるように改修を行った。

(3)「4 つの教育事業」で使用するアプリケーション・システムの開発・運用支援

- 平成 24 年度は、自己理解促進プログラムグループ・地域産業連携プロジェクトグループと連携し、それぞれのグループで使用する『スチューデントプロフィールシステム』(学修ポートフォリオシステム、Sozo Passport)の仕様策定を行い、結果としてプロトタイプを完成させた。平成 25 年度前半はさらに詳細な作り込みを行い、後半(秋学期、9 月)から正式にシステムの運用を開始した。運用開始に当たっては、事前に教職員向け説明会を実施し、操作方法等についての理解を促した。同様に、学生向け説明会も実施し、システムの目的や利用方法について説明を行った。図 3.3.4 に運用を開始した Sozo Passport の画面例を示す。Sozo Passport の機能の一つである「課題作成(教員)」「課題提出(学生)」の秋学期利用状況を整理した結果、学部・短大あわせて 26 科目(課題数 69)で同機能を利用しており、運用開始からまだ日が浅いものの、積極的に活用されたことがわかる。
- 地域産業連携プロジェクトグループで利用する『プロジェクト管理アプリ・システム』について改修(新 OS 対応)作業を行った。また、これまでの同システムの活用状況を振り返りながらシステムのあり方について検討を行い、次年度以降(平成 26 年度以降)に取り組むべき課題や方針についてまとめた。



図 3.3.4 スチューデントプロフィールシステム(Sozo Passport)画面例

(4) 事業成果の広報等を目的とした Web サイトの構築・運用

- 本事業の Web サイト(対外的な広報、および、内部関係者向けのマニュアル揭示等の目的で設置)について、取り組む事業ごとの活動履歴や情報を参照しやすくするため、年度当初に大幅な改修を行った。図 3.3.5 に改修後の Web サイトを示す。
- 大学関係者(プロジェクト指導担当教員等)が情報を発信しやすくなるよう、学内における Web 記事掲載フローを整理した。結果として、平成 25 年度の掲載記事数は、前年度の 60 件から 119 件へと倍増した。図 3.3.6 および表 1 に Web アクセス解析結果を示す。この結果からもアクセス数が増加していることがわかり、大学関係者のみならず本学の取り組み(活動内容や教育手法等)を産業界・教育界に周知するひとつのツールとして効果的であったといえる。実際に、教育(就業力)関連の情報を整理しているポータルサイトから本事業の記事がリンクされ、そのサイトを経由した一定数のアクセスがあったことも確認された。



図 3.3.5 地域産業界連携教育力改革プロジェクト Web サイト <http://project.sozo.ac.jp/>

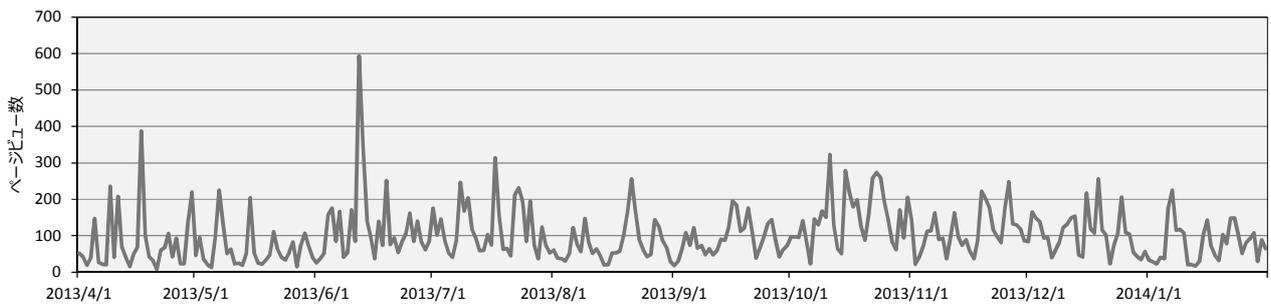


図 3.3.6 事業 Web サイトのページビュー数の推移 約 101 ページビュー/日 (2013/4/1~2014/1/31)

表 3.3.1 事業 Web サイトアクセス状況

年度	ユーザー数	訪問数	ページビュー数	訪問別 ページビュー
H24 (2012/4/1 - 2013/3/31)	2,706	9,059	19,894	2.20
H25 (2013/4/1 - 2014/1/31)	3,235	11,073	30,946	2.79

### 3. 今後の課題点

- (1) 継続して学内 ICT 環境の管理・監視を行い、適切な環境を維持できるよう努める。
- (2) 新たに本学に入学する学生に対して従来同様に iPad を貸与し、全員が iPad を所持し学習に利用できるよう準備する。また、そのための説明会の開催やマニュアル作成等を随時行う。引き続き e ラーニングシステムの利用促進策について検討する。
- (3) 関係事業グループと連携してスチューデントプロフィールシステム (Sozo Passport) に関する未作業分について開発・実装を行い、教職員および学生向けにサービスを提供する。随時利用者から意見を収集して機能改善を行い、より学生指導に有益なシステムに進化させる。
- (4) 前年度に引き続き本事業の活動内容を Web サイトに整理して掲載し、連携大学向け情報共有および一般の学外向け情報発信を行う。

## (2)大学コミュニティーグループ

### 1. グループ事業の取り組み

本学では、『産業界ニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業』の補助金対象外のコミュニティーグループ活動を、本学の費用負担で行っているものである。目的は『教育体制・産業界ニーズ把握体制の後方支援』である。平成25年度は卒業後3年間における卒業生の離職状況調査を中心に以下の活動を行った。また、この活動は大学と短大が連携した形で行っている。

平成25年度活動内容は

月 日	活 動 内 容	学部
4月～5月	平成22、23、24年3月卒業生 就業状況調査の集計、分析	○
5月	就業状況調査未回答者追跡調査実施	○
6月～3月	卒業生就職先に企業訪問 求人開拓 在学生への教育指導依頼	○
10/26-10/27	創造祭同窓会ブース開設 創造祭へ来た卒業生にアンケート調査を実施	○
10/28 (月)	学内企業説明会 OB 人事担当者参加による説明に実施	○
12/5 (木)	短大OG 交流実施 (先輩の就職体験報告会にOG 参加)	
2月	平成23、24、25年3月卒業生 就業状況調査の実施	○
2/9 (土)	学内企業説明会 企業アンケート調査	○
3月	就業状況調査未回答者追跡調査実施	○

### 2. 活動成果

#### ■ 卒業生就業状況調査

過去3年間の卒業生に対して、就業状況を把握するアンケートを毎年実施している。アンケートは離職率を集計するだけでなく、離職に至った理由等を分析し、在学生の就職指導や各種対策講座へも反映し、安易な離職を防ぐためのノウハウの蓄積となり役立てている。

また、このアンケートでは卒業生との大学コミュニティーを活用した社会人基礎教育を展開させ、在学生が交流できる仕組み作りに役立てることを視野に入れた項目も設けており、卒業後の早期離職を防ぐことに繋げている。

課題としては、アンケートの回収率の問題がある。平成26年3月31日〆については、未回答の卒業生宅へ休日などに電話を掛けて、個別に調査を行う予定をしている。

2012年度調査より

【2012年3月卒業生の離職率】 大学 19.2% 短大 22.5%

【離職理由上位】

(大学) ・長時間労働・適性に疑問を持った・給与水準が低かった

(短大) ・人間関係が悪かった・長時間労働・適性に疑問を持った

という結果であった。

#### ■ 創造同窓会総会におけるアンケート調査

8月3日(土)2年に一度の同窓会総会が開かれアンケートを実施した。

実施対象者：本学学部卒業生 50名 有効回答者数： 29名

##### 1) 現在の勤務先の満足度

・大変満足 2 ・満足 15 ・普通 6 ・多少不満 2 ・不満 2 他

2) 勤務先のよいところを記入して下さい

<業務・企業について> ・安定している ・顧客訪問が多く、様々な個性に触れることが多い  
・人の役に立つ仕事である ・モノ作り ・ゼロからの商品企画、展開が魅力  
・最先端の技術にふれられる

<労働環境・待遇等> ・県外転勤がない ・とても仲が良く働きやすいです ・給与  
・休暇 ・休日を拘束されない ・自分の予定に合わせて勤務できる  
・長期転勤がない所 ・福利厚生がいい ・人の事を大切にできること  
・1人1人の役割に対する責任が大きく、やりがいがある  
・自分のものさしを拡大でき、視野が広がり勉強になる

3) 勤務先の問題があると思うところを記入して下さい(自由記述)

<業務・企業について> ・自由すぎる ・先が見えない ・業界がいつまで続くのか不安  
・無意味な業務が多い ・現場の仕事、苦労をトップが知らない  
・利用者の思いにこたえることができず、自立や生活機能動作の向上に目的を置きがち  
・月末、大型連休前後の量が多い ・発送の量が安定しない  
・若い人がすぐ辞め、年のいった人ばかりの逆ピラミッド

<労働環境・待遇等> ・多忙 ・報告が多い ・雰囲気为学校に近く、社会的な雰囲気が薄い  
・出世しないとモチベーションが低下する  
・サービス残業が多い所 ・利益が少なく賞与が少ない、または全くない

4) 平均の残業時間について 1日平均の残業時間数 回答者 23名

・なし 4 ・0.5~1.5時間 11 ・2~3時間 6 ・3~4時間 2

5) 残業代は支給されますか? 回答 17名

・支給される 12 ・支給されない 5

6) 今の勤務先を後輩に勧めますか?

・はい 12 ・いいえ 8 ・分からない 6 ・未記入 3

7) 今後、大学から授業や就職ガイダンスへの協力依頼があった場合、可能ですか?

・はい 9 ・いいえ 9 ・条件が合えば 6 ・未記入 6

8) あなたは働き続けるために必要な条件は何だと思いますか?

・給与面 8 ・人間関係 18 ・精神力 12 ・その他 3 ・未記入 4

(意見) ・給与面、人間関係、精神力のうち2つは必要、2つ欠けたら難しい

9) その他意見 ・人と人との関わりが人間の世の全てと知りました。教養ももちろん必要ですが、まず人として豊かな人材育成が必要かと考えます。豊橋創造大学からも人材を出していけるよう人間味ある教育を今後ともよろしくお願い申し上げます。

10) 転職された方理由

・会社に将来性がないと思った 6 ・労働時間が長すぎた(不規則であった) 3  
・給与水準が低かった 3 ・人間関係が悪かった 2 ・キャリアアップのため 2 他

11) 在学生から就職相談のある場合は電話をしてもよいでしょうか

・はい 4 ・いいえ 9 ・未回答 16

**【所見】** 今回で同窓会総会開催時に実施する卒業生アンケートは2回目になるが、出席する卒業生は正規職員で働いている人が多く、勤務先の満足度も「大変満足」・「満足」が17名と約57%の卒業生が満足と答えている。また、回答者29名のうち9名が転職経験者と約3割が転職を経験しているが、1

期生が卒業してから 13 年が経ったことを考えると同窓会に出席する卒業生は多少なりとも現状に不満があっても最初に就職したところで頑張っており、7 割が定着している結果となった。最近の離職率調査の結果が 1 年で離職率 3 割を超えることを考えると働き続けるために必要な条件 1 位に人間関係、2 位に精神力、そして 3 位が給与面と答えていることから本学のキャリア教育で養成しようとしているメンタルタフネスは重要な教育である。また、給与面も 3 位に入っていることから求人票をしっかりと確認して、就職先を選ぶことが大切なことを在籍学生へ指導していきたい。さらに、OB・OG として母校への協力も前向きに考えてくれている卒業生が多いことも今回のアンケートの収穫となった。今後も引き続きアンケートを実施し、卒業生の動向を捉えていきたい。



図 3.3.7 同窓会総会アンケート実施



図 3.3.8 創造祭卒業生同窓会ブースアンケート実施

#### ■ 創造祭学部卒業生同窓会ブースにおけるアンケート調査

『創造祭』（学園祭）の交流の場として学部卒業生を対象とした同窓会ブースを開設した。

開催日：平成 25 年 10 月 26 日（土）・27 日（日）

会場：豊橋創造大学 B22 教室 卒業生参加：50 名

勤務先に関する就職のアンケート調査を実施した。有効回答者は 18 名

- 1) 今の仕事で『満足・普通』で 15 名。『不満・多少不満』で 2 名であった。
- 2) 勤務先の『良いところ』は、安定している、人の役に立つが多く、
- 3) 『悪いところ』では、多忙・サービス残業、先が見えないとなっており、今回の調査では人間関係で良し悪しが決定されるウエイトが多いように思われた。
- 4) 平均の残業時間について 1 日平均の残業時間数 回答者 11 名
  - ・なし 4      ・0.5～1.5 時間 3      ・2～3 時間 4      ・3～4 時間 4
- 5) 残業代は支給されますか？ 回答 16 名
  - ・支給される 9      ・支給されない 5      ・役職になったので出ない 2
- 6) 今の勤務先を後輩に勧めますか？ 回答 17 名
  - ・はい 2      ・いいえ 5      ・分からない 10
- 7) 今後、大学から授業や就職ガイダンスへの協力依頼があった場合、可能ですか？
  - ・はい 4      ・日程が合えば 6
- 8) あなたは働き続けるために必要な条件は何だと思えますか？
  - ・精神力 8      ・人間関係 7      ・給与面 7      ・他 1
- 9) 転職者理由    ・家族や私的な事情（結婚を含む）・長時間労働    ・給与水準    ・人間関係

10) 在学生から就職相談のある場合は電話をしてもよいでしょうか

・はい5名

そのほか、卒業生からの求人情報もあり、さらに卒業生を招聘する授業や就職ガイダンスへの協力賛同者が10名ほど発掘できたことは、今回の成果であった。

#### ■ 学内企業説明会 企業アンケート実施



図 3.3.9 学内企業説明会 10月



図 3.3.10 学内企業説明会 2月

秋の『学内合同就職説明会 (10月28日 32社)』、春の『三河地区企業学内研究セミナー (2月8日 32社参加)』一部の企業の中には本学出身人事担当者の参加があった。本学学生の目線に立った、現実的で身近な説明は大変親近感もあり学生自身に大変意義のあるものであった。

また、各説明会において、本学学生の印象について、参加企業の皆様に簡単なアンケートを実施したのでご紹介させていただく。

#### 【秋の『学内合同就職説明会 (10月28日)』】

- ・積極的でよい8社
- ・真面目な学生が多い2社
- ・明るく疑問にもった事をそのままにせず質問するという社会人として必要な要素を兼ね備えている子が多いと感じました。4社
- ・熱心に聴いている姿に好感が持てました。2社
- ・おとなしい印象だった3社 (営業職)。
- ・何がしたいのか、そのためにどのように就活を行っていけばよいか手探り状態。
- ・人柄がよく、素直でおっとりしている印象でした。2社
- ・会社の予備知識がもう少しあるとよい。
- ・礼儀正しい
- ・地元学生が多い・他校にも言えますが、会場入り口でなかなか入ろうとしない学生が気になりました。
- ・あまり積極的ではない (介護)
- ・学園祭実行委員を経験された積極的な生徒が参加してもらえてよかった。
- ・元気のある学生とない学生がいたように感じられました。
- ・どんな仕事をしたいのか、的を絞れていない学生が多く、この時期に的が絞れていないと難しいと思います。

#### 【春の『三河地区企業学内研究セミナー (2月7日)』】

- ・真面目な方が多い13社。
- ・おとなしい学生7
- ・反応がない1
- ・内向的1
- ・礼儀正しい1
- ・友達と固まって企業ブースを回っている学生がいる。
- ・質問が少ない

- ・就職するのはあくまで自分です、もっと個を積極的にアピールして欲しい。
- ・笑顔が良い2社 ・明るく積極的な学生さんが多い3社
- ・話を聞く姿勢や質問に思っている以上に鍛えられている感じがした。・熱心な学生2社
- ・コミュニケーションがしっかりとれる学生が多い
- ・まだこれから職種を決めると感じる学生が多い

という回答であった。特に気になるのが、本学学生は、『真面目でおとなしい』という企業からの指摘で積極性、社会人基礎力で言う『前に踏み出す力（主体性）』がまだまだ不足しているように考えられる。

《昨年度2月7日参加企業に実施したGPアンケートより》

- ・『産業界ニーズに対応した教育改革・充実体制整備事業』の取り組みについては大変よい取り組みである、特にメンタル面での取り組みは先進的だと思う。
- ・学生さんが自ら立ち上げ運営までされることは、とてもよい学習になると思います。
- ・大学の講義を聞くだけでは学べないことを肌で感じられるよい機会である。
- ・最近の学生に不足している点は、個性、コミュニケーション能力、積極性、忍耐強さ。専門知識にこだわらず、幅広い知識、応用力が必要。
- ・10年前前と比較すると、「どんどん出世したい」というガッツのある方が少なくなった。サラリーマン、社会人に対して夢を持てるようにすることが必要と考えます。
- ・本学学生に不足しているものとして、明るさ、元気さ（特に男性）、目的意識。
- ・面倒見がよい学校が多いですが、ある程度「不自由さ」を経験することで、自ら動き発見する力が養われるのではないかと考えます。わざわざ大人が手助けしなくても社会を堂々と渡り歩いて行ける強さを身に付けられるような教育をお願いしたいです。

この結果から、企業が望む人材として『ガッツのある人材』『めげない精神力』『周りに配慮できる人材』などを求めており、おおむね本事業を評価したものとする。

#### ■ 短大OG交流実施（先輩の就職体験報告会にOG参加）



『短大OGとの交流の場』として短大キャリアプランニング科1年生を対象とした「先輩の就職体験報告会」を実施した。

実施日：平成25年12月5日（木）4時限

会場：豊橋創造大学 B14教室 在学生参加：55名

OG講師：医療法人 光生会 天野磨美子氏（2006年度キャリアプランニング科卒業生）

1年生を対象とした「先輩の就職体験報告会」を今年度も実施し、卒業予定者6名による内定報

告に続き OG による講演を実施した。OG からは実際の医療事務の仕事についての話や社会人になって大変だったこと、学生時代に学んでいた方が良いことなど現役の後輩たちへアドバイスをいただいた。講演後、在学生との交流の場を設け、話を聞いた在学生からは「これを機に今の自分の生活を改め直さなければならぬと痛感することができました」「在学中にしっかりとビジネスマナーを身に着けておきたい」など現役の学生たちにとって貴重な場となりました。

## ■ 企業訪問

企業訪問は、55 社（学部 15 社・短大 40 社）行った。特に短大では、昨年度卒業生が就職した企業を中心に訪問を実施し、採用した側の思惑や意見・配慮等を詳細な部分まで聴取することができた。また、訪問することにより卒業生が喜ぶ様子から状況を読み取り、また苦悩する表情に励ましの助言を行うこともできた。このことは、早期離職に至る防波堤となったことと言える。さらに卒業生に対するフォローアップ効果も大であった。

今後は、直前卒業生の就職先訪問に留まらず、過去・新規の就職先企業訪問に広げていきたい。

### どんな人材が望まれているのか

- ・新しいことにチャレンジする勇氣・バイタリティが欲しい。
- ・思いやりのある、やさしい人材がほしい。(病院)
- ・積極的に声を出してほしい。
- ・元気で、明るいこと。人柄がよいこと。性格がよく、素直なこと。
- ・挨拶ができ、他人と会話ができて、まわりに興味が湧くこと。
- ・5年間かけて1人前にするつもりだ。厳しいがしがみついてきてほしい。(会計事務所)

### 直面している現状

- ・充実している商業高校の長期インターンシップとの差。
- ・メンタル面が弱い。「働くということ」に対して甘い考えがあること。
- ・「頭」と「体」のバランスが要求されている。考えていることをすぐ行動に移せる。口先で言うだけでなく、実際に行動できる。相手の言うことを理解し(場合によっては先取りし)、行動できる。
- ・採用試験の際、資格はあってもよいが、なくても支障がない。
- ・就職してから社内研修など、活動に積極性が見られない場合がある。
- ・自己肯定感の弱い卒業生がいる。高校生より自分の能力不足を自覚し、気弱になる。
- ・医療事務職は、基本的に欠員補充なので、計画的な採用が少ない。
- ・一度、本学の卒業生の採用で懲りると、戻るまでに時間がかかる。
- ・企業は、「大人の対応」をするので、我々に対して直接文句を言うことは少なく、無言で本学から離れ、求人票を送ってこなくなる。
- ・女子学生においては事務志望が多いが、実際には事務職採用企業は少なく、営業や販売、介護などの専門職で働ける人材を望んでいる。

上記が、卒業生の就職先訪問から得られた状況の一例である。今後は情報を掘り下げ、マッチングの質を高めること、これからの学生に必要なグローバルな考え方や自分の考えを人に伝える力(コミュニケーション力)を伸ばすことなどは、一人一人の学生を見つめ指導する側の重要事項と考え、更に今後の課題として取り組んでいくことである

### 3. 次年度に向けた改善

本活動は『教育体制・産業界ニーズ把握体制』の後方支援を行っているが、結果を分析して教育改善を行うため学部、短大に積極的にフィードバックしていきたい。今後の課題としては、現状の大学コミュニティ活動だけでは限界があり、範囲も限定されていることから、三遠南信地域産学官人財育成ワーキングへの参加等へも広げてゆきたいと考えている。



図 3.3.11 名古屋 企業セミナー



図 3.3.12 名古屋「女子学生のための就職フェア」

